

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議
平成30年度第3回総会 次第

日時：平成30年12月13日（木）9：00～
場所：JA福島ビル9階91会議室

1．開 会

2．あいさつ

3．議長選出

4．議 題

議案第1号 31年産米にかかる「生産数量（面積）の目安」の
取り扱いについて（案）

5．閉 会

資料一覧

次第

資料一覧

議案第1号 31年産米にかかる「生産数量（面積）の目安」の取り扱いについて（案）

3 1年産米にかかる「生産数量（面積）の目安」の取り扱いについて（案）

1. 「食料・農業・農村政策審議会食糧部会」における決定内容等

(1) 農林水産省は、11月28日「食料・農業・農村政策審議会食糧部会」を開催し、「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」を改定、30/31年および31/32年の需給見通しおよび備蓄運営の基本的な考え方等について公表。

(2) 需給見通しでは、31/32年までに需要量が14万トン程度減少する見通しを示し、31年産米必要生産量は31/32年需要量と同水準の726万トンと、30年産米と比較し9万トンとなる指針を提示。この結果、32年6月末在庫は188万トンとなる見通し。

(3) 更に、726万トンの必要生産量では32年6月末在庫が188万トンとなることから、32年6月末在庫が安定供給を確保できる180万トンとなる726万トンから8万トンの幅をもった718万トンもあわせて31年産米の必要生産量として提示。718万トンは、30年産米の必要生産量と比較し17万トンの減少。

なお、31/32年需要量は、31年産米の価格状況を見通すことは困難であるため、価格変動が生じた場合の需要量への影響は見込んでいないとしている。

(4) 福島県において、食糧部会の内容をふまえ31年産米にかかる「生産数量（面積）の目安」設定の枠組にもとづき再計算すると、県全体の主食用米目安面積は、必要生産量が726万トンの場合は60,400ha程度、必要生産量が718万トンの場合は、59,700ha程度と、既に決定した「生産数量（面積）の目安」との関係では、面積ではそれぞれ700ha、1,400ha程度減少、比率ではそれぞれ99%、98%程度の水準となる。

2. 31年産米「生産数量（面積）の目安」の取り扱い

(1) 福島県の30年産米作況は「101」の平年並みと公表されているが、銘柄・地域・個人により大きなバラつきがみられること、集荷価格が前年産より上昇していることから、生産者現場では31年産米へ向けても主食用米の生産拡大意欲が強いと想定される、

一方需要減少は顕著であり、業務用を中心として販売価格引き上げは困難な環境にあるなど、生産者の受けとめ方と全体需給環境との間で大きな乖離が生じている状況にある。

議案第1号

(2) このため、31年産米に向けては、生産現場に需給環境にかかる情勢を正確・迅速に伝えることが最も緊急かつ重要となる。

については、食糧部会の結果をふまえた31年米にかかる「生産数量(面積)の目安」の取り扱いについては、以下により対応する。

生産現場に対し需給環境にかかる正確なメッセージを発信するため、県全体の「生産数量(面積)の目安」については59,700haに下方修正し、あわせて県全体の制度別・用途別作付計画を変更する。

59,700haは、当初「生産数量(面積)の目安」対比 2%程度であるため、地域農業再生協議会の「生産数量(面積)の目安」については個別に変更しない。

福島県全域において、既に決定・提示した「生産数量(面積)の目安」をベースに主食用米作付けを 2%程度削減し、非主食用米作付けを更に拡大することを目標として取り組みをすすめる。

なお、非主食用米の更なる拡大は、31年産政府備蓄米買入が、県別優先枠100%で実施されることをふまえ、備蓄米で取り組むことを基本として推進する。

(3) なお、福島県の需給見通し試算では全国と同程度の需要減少ペースで考えた場合、32年6月末在庫は30年6月末在庫と比較し増加する可能性があり、飼料用米・備蓄米等の非主食用米への取り組み拡大の徹底、多収品種への転換による10a当たり収入確保を前提とした販売価格の安定、事前・複数年契約の拡大など主食用米の生産抑制と需要の確保・販売拡大を同時並行して取り組むことが必須な環境にある。

以上

31年産制度別・用途別作付計画(修正)

年産		30年産		31年産			単位:ha
		計画	9/15現在見込み	計画	計画対比	実績対比	
項目		①	②	③	④=③-①	⑤=③-②	
当初計画(福島県のシェア面積)	A	61,200	61,200	59,700	▲ 1,500	▲ 1,500	
目安面積	B	59,300	59,300	59,700	400	400	
主食用作付面積	C	59,300	61,199	59,700	400	▲ 1,499	
目安面積との差	D	0	1,899	0	0	▲ 1,899	
非主食用米	E=SUM(①:⑥)	12,100	10,003	12,130	30	2,127	
	①飼料用米	6,800	5,275	5,500	▲ 1,300	225	
	多収品種	4,500	2,078	3,000	▲ 1,500	922	
	多収品種比率	66	39	55	▲ 12	15	
	②備蓄米	3,800	3,170	3,700	▲ 100	530	
	③加工用米	320	439	450	130	11	
	④WCS	1,100	1,052	1,000	▲ 100	▲ 52	
	⑤輸出入	0	38	50	50	12	
⑥その他	80	29	1,430	1,350	1,401		
全水稻作付面積	F	71,400	71,202	71,830	430	628	

注) 31年産非主食用米「その他」は備蓄米を基本として県下全域で推進。

(参考)

全体需給見通し(11月28日食糧部会)

項目		7月指針	11月指針	
			726万トンス	718万トンス
29年6月末民間在庫量	A	199	199	199
29年産主食用米生産量	B	731	731	731
29/30年主食用米供給量	C=A+B	930	930	930
29/30年主食用米需要量	D	740	740	740
30年6月末民間在庫量	E=C-D	190	190	190
30年産主食用米生産量	F	735	733	733
30/31年主食用米供給量	G=E+F	925	923	923
30/31年主食用米需要量	H	741	735	735
31年6月末民間在庫量	I=G-H	184	188	188
31年産主食用米生産量	J		726	718
31/32年主食用米供給量	K=I+J		914	906
31/32年主食用米需要量	L		726	726
32年6月末民間在庫量	M=K-L		188	180

注) ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合あり。

福島県需給見通し(一部想定)

項目		当初目安	11月指針		備考
			726万トンス	718万トンス	
29年6月末民間在庫量	A	129	129	129	
29年産主食用米生産量	B	328	328	328	
29/30年供給計	C=A+B	457	457	457	
29/30年需要量	D	331	331	331	
30年6月末民間在庫量	E=C-D	126	126	126	在庫減少
30年産主食用米生産量	F	343	343	343	10/15現在予想収穫量
30/31年供給計	G=E+F	469	469	469	
30/31年需要量	H	328	328	328	29/30▲1%
31年6月末民間在庫量	I=G-H	141	141	141	在庫増加
31年産主食用米生産量	J	332	329	325	「生産数量(面積)の目安」
31/32年供給計	K=I+J	473	470	466	
31/32年需要量	L	325	325	325	30/31▲1%
32年6月末民間在庫量	M=K-L	148	145	141	在庫増加